

岩手県立農業試験場研究報告
第25号 227-242(1985)

奨励品種編入に関する資料 —小豆「ベニダイナゴン」(十育113号)—

I 来 歴

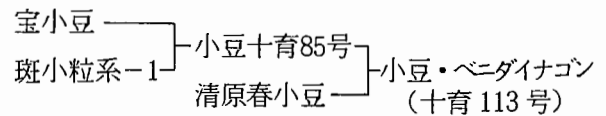
小豆、「ベニダイナゴン」は早熟、多収、大粒品種の育成を目標とし、昭和48年に北海道十勝農業試験場において「十育85号」(後の「ハヤテシヨウズ」)を母、「清原春小豆」を父として交配を行い、以後、選抜固定をはかってきたものである。

昭和54年に「十系206号」の系統名で岩手県立農業試験場のウイルス病特性検定試験に供試され、極強と判定された。

昭和57年以降「十育113号」の系統名を付し、岩手農試本・分場で生産力検定試験を行うとともに、現地試験、栽培法に関する試験を実施し、成績良好と認められた。

この系統は昭和59年度においてF12代である。

系 譜



韓国水原市作物試験場
より導入 昭和41年

II 特性の概要

1. 特性一覧

1) 形態的特性

系 統 名 または品種名	主 茎 長	主 茎 節 数	分 枝 数	葉の形状		花 色	莢の形 状			毛 茸 の 多 少	毛 茸 の 形	一 莢 粒 数	胚 珠 数	子実の形状		種 皮 色	品 質
				上 位 葉	下 位 葉		熟 莢 色	長 度	幅					形 状	大 小		
ベニダイナゴン	中の短	中	少	剣先	円	黄	黒褐	長	広	少	鈍	少	少	円筒	大の小	濃赤	中上
大 館 2 号	短	中	中	円	円	黄	黒褐	中	狭	少	鈍	多	多	円筒	中の小	赤	中上
岩手大納言	中	中	中	円	円	黄	褐	長	広	少	鈍	多	多	円筒	大の小	濃赤	中上

2) 生態的特性

系 統 名 または品種名	開 花 期	成 熟 期	抵 抗 性		加 工 適 性 種皮歩合
			倒伏抵抗性	ウイルス病	
ベニダイナゴン	早	早	中	極 強	低
大 館 2 号	早	早 の 晩	中 の 強	弱	高
岩手大納言	晩	中 の 晩	中	弱	低

- 注) 1. 小豆品種特性分類審査基準(昭和56年3月)による。
 2. ウイルス病抵抗性-岩手農試調べ。
 3. 加工適性: 昭和59年産(岩手農試産)「ベニダイナゴン」9.3%、「大館2号」10.7%、「岩手大納言」9.9%~十勝農試調べ。

2. 形態的特性

主茎長は「岩手大納言」より短く、「大館2号」並みであり、分枝数は両品種よりやや少ない。莢色は「大館2号」と同じ黒褐色、莢は長く、莢幅は広く「岩手大納言」並みである。子実の形状は「岩手大納言」と同じ円筒、粒は「大館2号」に比べ大きく、「岩手大納言」と同じかやや大きい。種皮色は5月中~下旬の播種では高温時の登熟となるため濃赤色となり、外観品質は「大館2号」、「岩手大納言」よりやや劣るが、6月播きでは赤色となって、外観品質が良好となる。

3. 生態的特性

開花期、成熟期とも「大館2号」、「岩手大納言」より早い早生種に属する。ウイルス病抵抗性は“極強”で、子実収量ともに「大館2号」、「岩手大納言」より優る。倒伏抵抗性は「岩手大納言」と同じ“中”程度である。種皮歩合は「岩手大納言」と同じ“低”である。

2,376 haである。早生種の奨励品種として、「大館2号」が導入されている。しかし、小粒種であるため、流通上の不利もあって栽培面積は極めて少ない。その他、在来種が作付されているが低収で品質も劣るものが多く、良質で安定多収な早生大粒品種の導入が望まれていた。

中晩生種では「岩手大納言」「紅南部」が普及しているがウイルス病に弱く、その栽培地帯は岩手県中部から北部に集中して、県南部への作付は伸びていない。

その点「ベニダイナゴン」はウイルス病抵抗性を有するため、県中部から県北部にわたって、その発病はほとんど認められない。また、県南部での罹病も極めて少ないことから、作付面積の拡大が可能である。

「ベニダイナゴン」は「大館2号」「岩手大納言」に比べ多収であり、早生、大粒であるので奨励品種に採用した。

Ⅳ 普及見込み地帯および面積

Ⅲ 奨励品種に採用した理由

岩手県における小豆の作付面積は、昭和58年で

1. 普及見込み地帯 岩手県一円
2. 小豆品種の作付の現状と普及見込み面積

奨励品種編入に関する資料

品種名 または系統名	年度 面積	現在 (59年)		普及見込み (62年)		普及見込み (65年)	
		栽培面積(ha)	比率 (%)	栽培面積(ha)	比率 (%)	栽培面積(ha)	比率 (%)
岩手大納言		1,150	48.4	1,080	47.0	870	37.8
紅南部		132	5.6	150	6.5	180	7.8
大館2号		188	7.9	30	1.3	0	0
その他		906	38.1	590	25.6	250	10.9
ベニダイナゴン		0	0	450	19.6	1,000	43.5
計		2,376	100	2,300	100	2,300	100

V 栽培上の留意点

1. 早播きは品質低下のおそれがあるのでやや遅播きとする。

1) 県南地方は生育旺盛なので播種期は6月下旬とする。

2) 県中央部の播種期は6月上～中旬、県北は6月上旬を適期とする。

2. 肥沃土壌では蔓化倒伏することがあるので、栽植密度は10a当り8,300～12,000株程度とする。

3. 標準Nの施肥量は4kg/10aとするが、肥沃度によって増減する。

4. フキノメイガの発生は品質劣化となるので防除を徹底する。

5. 晩播の場合は十分乾燥、後熟後脱穀する。

6. アブラムシの防除、種子更新は従来どおり留意すること。

VI 試験成績

1. 生産力検定試験

1) 本場における成績

系統名 または 品種名	試験 年度 次 (昭和)	開 花 期 (月.日)	成 熟 期 (月.日)	倒 伏 程 度	主 茎 長 (cm)	主 茎 節 数 (節)	分 枝 数 (本)	莢 数 (個/m ²)	一 莢 内 粒 数 (粒)	a 当り 収量(kg)		同 左 対 照 比 (%)	百 粒 重 (g)	粒 色	品 質
										総 重	子 実 重				
ベニ ダイナゴン	57	7.20	9.6	無	29	11.9	2.0	389	4.7	44.4	24.2	114	16.6	赤	中中
	58	7.30	9.27	無	34	12.0	0.5	360	4.5	37.2	18.3	141	16.4	濃赤～赤	中中
	59	7.16	9.8	無	36	12.6	0.6	393	4.7	43.7	22.4	185	12.6	濃赤	中上
	平均	7.22	9.14	無	33	12.2	1.0	381	4.6	41.8	21.6	139	15.2	濃赤～赤	中中
大館2号 (対 照)	57	7.31	9.18	無	56	17.3	4.6	618	6.6	41.3	21.3	100	10.0	赤	中中
	58	8.1	9.21	無	36	12.7	0.3	411	5.8	26.0	13.0	100	11.6	赤	中上
	59	7.19	9.10	無	40	15.3	0.2	256	6.1	35.4	12.1	100	8.2	赤	中上
	平均	7.27	9.16	無	44	15.1	1.7	428	6.2	34.2	15.5	100	9.9	赤	中上
岩手大納言 (比 較)	57	7.31	9.16	少	56	14.8	2.4	304	5.7	46.2	26.8	126	17.4	赤～濃赤	中中
	58	8.6	9.25	微	49	15.7	1.4	299	5.8	28.2	15.7	121	17.2	赤～濃赤	中上
	59	7.24	9.15	中	55	16.5	1.6	286	6.4	43.6	20.0	165	11.3	赤～濃赤	中上
	平均	7.31	9.19	少	53	15.7	1.8	296	6.0	39.3	20.8	134	15.3	赤～濃赤	中上
紅南部 (比 較)	57	8.5	9.23	少	74	17.8	2.7	514	4.9	44.6	21.0	99	11.0	赤	中上
	58	8.12	10.6	微～少	52	18.4	2.1	433	6.4	42.8	21.1	162	11.4	赤	下上
	59	7.24	10.5	中	71	20.1	3.2	337	5.5	60.7	24.7	204	13.7	淡赤	中上
	平均	8.3	10.1	少	66	18.8	2.7	428	5.6	49.4	22.3	144	12.0	赤	中上

耕種概要

年次 (昭和)	播種期	施肥量 (kg/a)				栽植密度、畦幅(cm)×株間(cm) (本/a)						区制
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	早生:ベニダイナゴン、大館2号			中晩生:岩手大納言、紅南部			
57	5月19日	0.4	1.7	1.0	200	60×15	2本立	(2222)	60×12	1本立	(1389)	2
58	5月26日	0.4	1.7	1.0	200	"	"	"	"	"	"	2
59	5月26日	0.4	1.7	1.0	200	"	"	"	"	"	"	2

2) 県南分場における成績

系統名 または 品種名	試験 年次 (昭和)	開 花 期 (月.日)	成 熟 期 (月.日)	倒 伏 程 度	主 茎 長 (cm)	分 枝 数 (本)	莢 数 (個/m ²)	ウ イ ル ス 病	a 当り 収量(kg)		同 左 対 照 比 (%)	百 粒 重 (g)	粒 色	品 質
									総 重	子 実 重				
ベニ ダイナゴン	57	7.30	9.17	甚	118	2.6	355	微	57.4	22.9	165	18.3	濃赤	中中
	58	8.12	10.6	多~甚	65	1.8	348	微	43.1	20.5	126	18.2	濃赤	中中
	59	8.3	10.26	微	45	2.8	319	無	64.9	20.1	162	19.7	赤	中上
	平均	8.5	10.6	多	76	2.4	341	微	55.1	21.2	149	18.7	濃赤~赤	中中
岩手大納言 (対 照)	57	8.13	9.15	多	73	3.2	265	多~甚	48.5	13.9	100	15.3	濃赤~赤	中中
	58	8.17	10.2	多~甚	62	1.8	289	少	36.6	16.3	100	16.5	濃赤	中中
	59	8.7	10.23	少~中	42	2.5	124	多	43.9	12.4	100	19.1	赤	中中
	平均	8.12	10.3	多	59	2.5	226	多	43.0	14.2	100	17.0	濃赤~赤	中中

耕種概要

年次 (昭和)	播種期	施肥量 (kg/a)				栽植密度、畦幅(cm)×株間(cm) (本/a)						区制
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	早生:ベニダイナゴン			中生:岩手大納言			
57	6月7日	0.24	1.0	1.0	120	60×10	1本立	(1667)	60×10	1本立	(1667)	2
58	6月22日	0.24	1.0	1.0	120	60×10	"	(1667)	60×10	"	(1667)	2
59	6月22日	0.24	1.0	1.0	120	70×20	"	(714)	70×20	"	(714)	2

奨励品種編入に関する資料

3) 県北分場における成績

系統名 または 品種名	試験 年次 (昭和)	開 花 期 (月.日)	成 熟 期 (月.日)	倒 伏 程 度	主 茎 長 (cm)	分 枝 数 (本)	莢 数 (個/m ²)	ウ イ ル ス 病	a 当り 収量(kg)		同 左 対 照 比 (%)	百 粒 重 (g)	粒 色	品 質
									総 重	子 実 重				
ベニ ダイナゴン	57	7.23	9.21	中	65	3.9	501	無	-	33.6	120	18.1	濃赤	中下
	58	7.29	9.26	多〜甚	87	3.8	314	無	49.1	27.6	109	17.5	濃赤	中下
	59	7.13	9.2	多〜甚	96	4.2	318	無	48.2	15.6	75	14.3	濃赤	中中
	平均	7.22	9.16	多〜甚	83	4.0	378	無	48.7	25.6 (21.6)	104 (94)	16.6	濃赤	中下
大館2号 (対 照)	57	8.10	9.30	甚	97	3.9	507	微	-	28.1	100	10.9	赤	中上
	58	8.6	9.26	少〜中	80	3.2	326	微	43.4	25.3	100	11.8	赤	中中
	59	7.27	9.2	多	90	4.9	318	微	63.2	20.8	100	11.2	赤	中下
	平均	8.4	9.19	多	89	4.0	384	微	53.3	24.7 (23.1)	100 (100)	11.3	赤	中中
岩手大納言 (比 較)	58	8.15	10.6	甚	83	2.5	223	微	46.4	26.8	106	19.7	濃赤	中上
	59	7.29	9.5	甚	98	2.7	208	微	46.2	15.1	73	14.6	やや濃赤	中下
	平均	(8.7)	(9.21)	(甚)	(91)	(2.6)	(216)	(微)	(46.3)	(21.0)	(91)	(17.2)	(濃赤)	(中中)
紅南部 (比 較)	57	8.17	10.7	甚	109	7.1	478	少	-	24.9	89	12.3	淡赤	中中
	58	8.17	10.13	中〜多	78	4.0	312	微	52.8	25.2	100	13.2	淡赤	中上
	59	8.5	9.17	多	104	5.2	239	少	75.2	16.9	81	14.6	淡赤	中上
	平均	8.13	10.2	多〜甚	97	5.4	343	微〜少	64.0	22.3 (21.1)	90 (91)	13.4	淡赤	中上

注) 59年度「ベニダイナゴン」はフキノメイガによる被害が多かった。

() は、昭和 58.59 年の 2 箇年平均。

耕種概要

年次 (昭和)	播種期	施肥量 (kg/a)				栽植密度、畦幅(cm)×株間(cm) (本/a)						区制
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	早生:ベニダイナゴン、大館2号			中晩生:岩手大納言、紅南部			
57	5月26日	0	0.5	0.6	-	70×15	2本立	(1904)	70×12	1本立	(1190)	2
58	5月28日	0	0.5	0.6	-	70×20	"	(1428)	70×15	"	(952)	2
59	5月24日	0.3	1.25	0.6	-	70×20	"	(1428)	70×15	"	(952)	2

2. 栽培法に関する試験

1) 栽植密度・窒素施肥量に関する試験

(本場・昭和57年)

系統名 または 品種名	施肥	栽植密度		開 花 期 (月.日)	成 熟 期 (月.日)	倒 伏 程 度	主 茎 長 (cm)	主 茎 節 数 (節)	分 枝 数 (本/株)	莢 数 (個/m ²)	一 菜 内 粒 数 (粒)	a 当り 収量(kg)		子実重 対比(%)		百 粒 重 (g)
		株 間 (cm)	個 体 数 (本/a)									総 重	子 実 重	標 肥	大 館 2 号	
ベニ ダイナゴン	標	10	1,667	7.19	9.5	無	20	9.9	0.4	377	4.6	37.8	22.3	100	103	16.8
		12	1,389	7.20	9.5	無	24	10.8	0.3	401	4.2	40.8	23.1	100	94	16.8
		15	1,111	7.19	9.5	無	23	10.4	1.0	336	4.7	41.2	23.1	100	108	16.9
		18	926	7.20	9.6	無	26	11.7	1.0	321	4.7	43.9	22.9	100	112	16.4
	多 肥	10	1,667	7.20	9.4	無	18	9.2	0.3	347	5.1	52.2	28.2	126	98	17.5
		12	1,389	7.19	9.6	無	21	10.5	0.9	376	4.9	51.9	27.0	117	101	17.2
		15	1,111	7.19		無	22	10.5	0.9	352	5.1	49.5	27.3	118	100	17.5
		18	926	7.19		無	26	11.7	1.7	346	4.6	43.3	22.7	99	92	16.9
大館2号 (対 照)	標	10	1,667	7.30	9.20	無	49	13.9	1.8	535	7.0	38.0	21.6	100	100	10.2
		12	1,389	7.31	9.18	無	47	13.7	2.2	486	6.1	43.4	24.6	100	100	10.1
		15	1,111	7.31	9.20	無	49	15.0	2.8	420	5.9	37.7	21.3	100	100	9.6
		18	926	7.31	9.18	無	48	15.3	3.3	432	6.5	33.8	20.4	100	100	10.0
	多 肥	10	1,667	7.31	9.20	微	50	14.3	2.9	586	6.5	52.2	28.7	133	100	10.4
		12	1,389	7.31	9.19	微	50	14.9	2.5	531	6.8	48.6	26.3	109	100	10.6
		15	1,111	7.31	9.20	微	48	14.7	3.2	493	6.5	46.0	27.4	129	100	10.2
		18	926	7.31	9.21	微	52	16.1	4.1	432	6.4	44.7	24.7	121	100	10.0

播種期：5月19日、畦幅：60cm 1本立

施肥量(kg/a)：標肥N-0.4、多肥N-0.6、N以外は同一

奨励品種編入に関する資料

2) 「ベニダイナゴン」の播種期・栽植密度・窒素施肥量に関する試験 (本場・昭和58年)

施肥	播種期 (月・日)	栽植密度		開花期 (月・日)	成熟期 (月・日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	莢数 (個/m ²)	一菜内粒数 (粒)	a 当り収量(kg)		子実重対比(%)		百粒重 (g)	粒色
		株間 (cm)	本数 (本/a)								総重	子実重	標肥	6月1日播き		
		標肥	6. 1								9	3,704	8. 2	9. 28		
	12	2,778	8. 1	9. 24	58	15. 3	1. 2	631	4. 8	49. 6	21. 8	100	100	17. 2	〃	
	15	2,222	8. 2	9. 27	52	13. 9	1. 1	409	4. 6	41. 8	14. 0	100	100	15. 7	〃	
	6. 15	9	3,704	8. 9	10. 10	60	14. 9	0. 9	670	4. 9	50. 7	22. 6	100	88	16. 3	赤
	12	2,778	8. 9	10. 10	64	16. 4	1. 2	503	4. 9	43. 2	20. 3	100	93	17. 0	赤～濃赤	
	15	2,222	8. 9	10. 6	48	13. 0	1. 3	444	4. 3	35. 9	17. 0	100	121	15. 0	赤	
肥	7. 1	9	3,704	8. 18	10. 14	57	14. 3	1. 0	444	4. 3	38. 0	13. 0	100	51	16. 3	赤
	12	2,778	8. 18	10. 14	53	14. 8	1. 3	333	4. 5	27. 2	6. 2	100	28	15. 9	赤	
	15	2,222	8. 18	10. 13	30	13. 5	0. 5	218	4. 7	18. 6	6. 3	100	45	15. 4	赤	
多肥	6. 1	9	3,704	8. 1	9. 27	50	11. 7	1. 8	511	5. 7	55. 1	25. 7	100	100	17. 6	濃赤～赤
	12	2,778	8. 1	9. 26	57	13. 1	1. 4	461	4. 5	58. 0	24. 7	113	100	17. 5	〃	
	15	2,222	8. 2	9. 29	49	13. 6	1. 0	420	4. 5	40. 9	18. 4	131	100	14. 9	〃	
	6. 15	9	3,704	8. 9	10. 6	60	15. 8	1. 1	648	4. 7	35. 9	15. 2	67	59	15. 1	濃赤～赤
	12	2,778	8. 9	10. 11	63	14. 8	1. 1	608	4. 7	72. 5	27. 9	137	113	17. 2	〃	
	15	2,222	8. 9	10. 7	51	14. 8	1. 1	440	4. 7	41. 0	18. 3	108	99	16. 1	〃	
肥	7. 1	9	3,704	8. 18	10. 14	54	14. 0	0. 9	496	4. 4	35. 2	14. 1	108	55	17. 0	赤
	12	2,778	8. 18	10. 14	53	14. 0	0. 5	333	4. 7	26. 6	12. 6	203	51	18. 6	濃赤～赤	
	15	2,222	8. 18	10. 14	30	13. 2	0. 5	238	4. 6	44. 1	8. 4	133	46	17. 0	赤	

畦幅：60cm 2本立、施肥量(kg/a)：標肥N-0.4、多肥N-0.8、N以外は同一

3) 転換畑における栽植密度試験(本場・昭和58年)

系統名 または 品種名	栽植密度		開 花 期 (月・日)	成 熟 期 (月・日)	倒 伏 程 度	主 茎 長 (cm)	主 茎 節 数 (節)	分 枝 数 (本/株)	莢 数 (個/m ²)	一 葉 内 粒 数 (粒)	a 当り 収量(kg)		子実重 対比(%)		百 粒 重 (g)	品 質
	株 間 (cm)	本 数 (本/a)									総 数	子 実 重	標準 処理	大館 2号		
ベニダイ ナゴン	9	3,704	7.28	9.30	少~微	82	13.5	0.9	415	5.0	68.5	17.5	94	70	16.9	中中
	12	2,778	7.28	9.30	"	72	14.0	1.3	487	5.4	64.8	21.5	116	130	17.9	中中
	15	2,222	7.27	9.29	"	79	14.2	1.6	431	4.7	70.5	18.6	100	146	17.3	中中
大館 2号 (対照)	9	3,704	8.2	9.24	少~微	59	12.7	0.7	389	6.7	73.4	25.1	198	100	11.3	中中
	12	2,778	8.2	9.24	"	55	13.1	0.7	303	7.2	67.6	16.6	131	100	11.5	中中
	15	2,222	8.1	9.25	"	63	14.5	0.5	344	7.3	64.9	12.7	100	100	11.4	中中

播種期: 5月31日、畦幅: 60cm 2本立、施肥量(kg/a): N-0.4、P₂O₅-1.7、K₂O-1.0

4) 晩播に関する試験

(1) 播種期・栽植密度試験(本場・昭和59年)

系統名 または 品種名	播 種 期	栽植密度		開 花 期 (月・日)	成 熟 期 (月・日)	倒 伏 程 度	主 茎 長 (cm)	分 枝 数 (本/株)	莢 数 (個/m ²)	a 当り 収量(kg)		子実重 対比(%)		百 粒 重 (g)	粒 色	品 質
		株 間 (cm)	本 数 (本/a)							総 重	子 実 重	標準 処理	大館 2号			
ベニダイ ナゴン	6.15	9	3,704	7.30	9.28	無	56	0.8	460	53.9	18.8	81	119	18.7	赤	中中
		12	2,778	7.30	10.2	無	57	1.3	517	56.4	23.1	100	136	19.3	赤	中上
	6.25	9	3,704	8.6	10.8	無	48	1.8	532	43.1	19.5	100	126	19.5	赤	中上
		12	2,778	8.6	10.8	無	47	2.1	458	43.9	19.5	100	130	19.3	赤	中中
大館 2号 (対照)	6.15	9	3,704	8.4	10.3	無	51	0.8	482	47.4	15.8	93	100	14.4	淡赤	中下
		12	2,778	8.3	10.3	無	51	0.6	367	49.0	17.0	100	100	13.4	淡赤	中下
	6.25	9	3,704	8.10	10.8	無	46	0.7	453	40.7	15.5	103	100	13.7	淡赤	中下
		12	2,778	8.10	10.8	無	43	0.9	376	36.9	15.0	100	100	13.2	淡赤	中下

畦幅: 60cm、2本立、施肥量(kg/a): N-0.4、P₂O₅-1.7、K₂O-1.0

奨励品種編入に関する資料

(2) 「ベニダイナゴン」の播種期試験（県南分場・昭和57年）

播種期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	莢数 (個/株)	倒伏程度	a 当り 収量(kg)		子実重 対比 7月6日 播き	百粒重 (g)	粒色	品質	ウイルス病
							総重	子実重					
7. 6	8. 16	10. 18	55	2. 1	17. 9	中	55. 6	28. 1	100	22. 7	赤	中上	微
7. 22	8. 27	未熟	55	1. 9	15. 1	多	48. 6	23. 7	84	22. 6	淡赤	中中	無

栽植密度：60×8cm、1本立、施肥量(kg/a)：N-0.2、P₂O₅-1.0、K₂O-1.0

(3) 「ベニダイナゴン」の小麦後晩播試験（県南分場・昭和57年）

場 所	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	莢数 (個/株)	倒伏程度	a 当り 収量(kg)		百粒重 (g)	品質	ウイルス病
							総重	子実重			
花 泉 町	8. 18	10. 3	43	1. 8	16. 5	少	41. 1	22. 6	20. 8	中上	無
陸前高田市	8. 16	9. 29	33	0. 7	8. 8	少	26. 7	12. 8	17. 8	中上	無
山 田 町		10. 26	30	1. 5	24. 0	微	38. 4	24. 4	21. 8	中上	無

耕種概要

場 所	播種期 (月日)	栽 植 密 度	施 肥 量 (kg / a)			
			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	そ の 他
花 泉 町	7. 9	60cm×8cm 1本立	0. 4	1. 5	0. 7	
陸前高田市	7. 1	” ”	0. 2	1. 0	1. 0	
山 田 町	7. 13	60cm×18cm ”	0. 4	1. 5	0. 7	オガクズ厩肥 300

(4) 「ベニダイナゴン」の大麦後晩播試験（県南分場・昭和59年）

場 所	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	莢数 (個/株)	倒伏程度	a 当り収量(kg)		百粒重	粒色	品質
						総重	子実重			
藤 沢 町	10. 6	20	1. 8	32	中	28. 0	12. 6	18. 8	赤～濃赤	上 下

播種期：6月28日、栽植密度：81.4×25.4cm、2本立

施肥量(kg/a)：N-0.24、P₂O₅-1.0、K₂O-0.48

(5) 「ベニダイナゴン」の播種期・栽植密度試験(県北分場・昭和59年)

播種期 (月日)	栽植様式			開花 期 (月日)	成熟 期 (月日)	主茎 長 (cm)	莢 数 (個/m ²)	a 当り 収量(kg)		子実重 対比(%)		百粒 重 (g)	品 質	ウ イ ル ス 病
	株 間 (cm)	一株 本数 (本)	本 数 (本/a)					総 重	子 実 重	標 準	5月 24日 播き			
5.24	10	1	1,429	7.13	9.2	130	277	65.3	19.9	128		16.5	中中	無
	10	2	2,857	7.13	9.2	130	497	66.4	23.9	153	100	16.3	中中	無
	15	1	953	7.13	9.2	100	241	45.7	15.2	97		14.8	中上	無
	15	2	1,905	7.13	9.2	127	367	54.3	17.1	110	100	16.8	中上	無
	20	2	1,429	7.13	9.2	96	318	48.2	15.6	100		14.3	中中	無
6.4	10	2	2,857	7.18	9.6	93	426	65.0	19.0	122	79	14.9	中上	無
	15	2	1,905	7.18	9.6	106	490	62.8	20.2	129	118	15.0	中上	無
6.13	10	2	2,857	7.27	9.10	74	373	44.3	13.9	89	58	14.7	中中	無
	15	2	1,905	7.27	9.10	85	360	51.9	15.2	97	97	16.2	中下	無

畦幅:70cm、施肥量(kg/a): N-0.3、P₂O₅-1.25、K₂O-0.9

3. 特性検定試験成績

1) ウイルス病抵抗性(環境部、昭和54年~59年)

6箇年の試験結果から、「ベニダイナゴン」のウイルス病抵抗性は“極強”と判定される。

ウイルス病抵抗性検定試験

系統名 または品種名	発 病 株 率 (%)						発 病 度						判定	
	54	55	56	57	58	59	54	55	56	57	58	59		
ベニダイナゴン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	極強
アカネダイナゴン	30.8	44.7	7.4	69.1	7.3	19.3	13.4	20.1	2.7	20.1	2.2	6.1	弱	
エリモショウズ	-	-	-	69.1	13.2	38.8	-	-	-	18.4	5.7	13.8	弱	
大館2号	54.2	58.6	30.6	-	-	-	21.5	25.6	10.6	-	-	-	弱	
岩手大納言(標準)	55.8	49.8	23.3	61.6	7.0	30.7	22.5	23.0	9.7	19.2	2.0	9.3	弱	
紅南部	57.5	49.3	17.0	88.4	12.4	74.6	22.9	17.5	6.4	24.5	3.9	24.5	弱	
ハヤテショウズ	22.5	-	-	25.0	1.5	19.0	13.8	-	-	7.8	0.6	6.4	中強	
清原春小豆	-	-	-	0.9	0	-	-	-	-	0.2	0	-	強	

-: 未供試

注1. 調査方法

1区全株について自然発病株数を調査した。発病程度は下記によって指数化し、発病度を算出した。

奨励品種編入に関する資料

発病指数

- 0：発病が認められないもの。
 1：上位葉、あるいは中位葉に軽いモザイク症状が認められるもの。
 2：モザイク症状が上位葉から中位葉まで認められるが、萎縮症状は認められないもの。
 3：2より程度が高く、萎縮症状が認められるもの。
 4：萎縮症状が著しく、結莢しないもの。

$$\text{発病度} = \frac{\sum (\text{各指数} \times \text{各指数に属する株数})}{4 \times \text{調査株数}} \times 100$$

注2. 調査日：昭和54年；8月17日、昭和55年；8月19日、昭和56年；8月17日
 昭和57年；8月25日、昭和58年；8月9日、昭和59年；8月25日

2) 加工適性

(1) 粒大分布 (技術部・昭和59年)

品 種 名 または系統名	5.5 mm以上 (%)	同左百粒重 (g)	5.3 mm以上 (%)	同左百粒重 (g)	4.9 mm以上 (%)	同左百粒重 (g)
ベニダイナゴン	80.2	16.8	19.3	12.5	0.5	8.0
大館2号	2.1	13.0	66.3	10.6	27.2	8.8
岩手大納言	90.2	16.8	9.4	12.0	0.4	8.5
紅南部	67.2	15.1	31.4	11.7	1.1	7.9

(2) 水煮特性 (技術部・昭和59年)

時間(分)	ベニダイナゴン	大館2号	岩手大納言	備 考
0				小豆 10 g } 火にかける 水 300 cc
12	沸騰始め	沸騰始め	沸騰始め	
14	湯が黄化始め	湯が黄化始め	湯が黄化始め	
17		表皮脱色始め	表皮脱色始め	
19	表皮脱色始め			
21		大部分の粒変色	大部分の粒変色	
27	大部分の粒変色			
36			裂皮始め	
37		裂皮始め		
44		湯が紫色(薄)	湯が紫色(薄)	
46	裂皮始め	粒碎け始め	粒碎け始め	
47	湯が紫色(薄)			
55	粒碎け始め			
65	ほとんど碎粒	ほとんど碎粒	ほとんど碎粒	
100	ほとんど粒形なし	ほとんど粒形なし	ほとんど粒形なし	湯の残量：大館2号、岩手大納言、ほぼ同量、ベニダイナゴンは上記品種より微量

4. 現地試験における成績

試験場所	系または品種名	年次	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏程度	主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢数 (個/m ²)	a 当り収量(kg)			百粒重 (g)	品質	ウイルス病	
									総重	子実重	大館2号比(%)				
二	ベニダイナゴン	57		9.5~10	無	40	3.9	336	38.2	22.2	145	14.5	中上		
		58	8.5~10		少	80	2.0	326	32.7	14.6	89	15.3	中下	無	
		59		8.25		甚	120	4.4	313	62.7	15.7	102	15.1	中上	無
		平均				無~甚	80	3.4	325	44.5	17.5	111	15.0	中中	無
	大館2号	57		9.5~10	無	56	3.4	319	33.9	15.3	100	8.7	中中		
		58	8.5~10		少	74	1.2	315	40.4	16.4	100	10.1	中中	微	
		59		8.24		多	102	7.2	422	68.5	15.4	100	9.9	中中	微
		平均				無~多	77	3.9	352	47.6	15.7	100	9.6	中中	微
戸 岩手大納言	57		9.20	少~中	77	4.3	198	33.7	15.4	101	14.7	上下			
	58	8.10~15		少~中	96	3.8	259	29.4	11.5	70	14.2	中中	少~中		
	59		8.31		多~甚	125	3.5	137	64.3	14.5	94	15.1	中中	少	
	平均				少~甚	99	3.9	198	42.5	13.8	88	14.7	中上	少~中	
一 戸 (奥中山)	ベニダイナゴン	57			中	61	3.4	357	45.5	18.7	205	16.0	中上		
		*58	8.10~15	9.25~30	無	55	0.4		43.1	11.3	115	13.5	中中		
		59		9.3		中	59	1.0	626	59.7	26.8	107	16.1	中上	無
		平均				中	60	2.2	492	52.6	22.8	133	16.1	中上	
	大館2号	57			中	62	3.2	213	34.9	9.1	100	7.4	中中		
		*58	8.10~15	9.25~30	無	32	0.1		25.4	9.8	100	9.8	中中		
		59		9.3		中	65	0.4	647	52.0	25.1	100	9.9	上下	無
		平均				中	64	1.8	430	43.5	17.1	100	8.7	中中	
岩手大納言	57			多	68	3.2	203	41.0	12.1	133	12.4	中中			
	*58	8.10~15	10.1~5	微	55	1.1		16.8	4.8	49	12.6	中下			
	59		9.9		中	79	1.4	347	56.0	24.7	98	16.3	中中	無	
	平均				やや多	74	2.3	275	48.5	18.4	108	14.4	中中		
紅南部	57			甚	88	3.9	323	46.9	15.0	165	12.3	中上			
	*58	8.15~20	10.15~20	微	54	1.4		29.1	8.4	86	13.2	中下			
	59		10.4		中	95	2.3	457	56.1	23.8	95	14.0	上中	無	
	平均				多	92	3.1	390	51.5	19.4	113	13.2	中上		

※ 一戸：昭和58年は当初5月27日播種、6月12日晩霜のため6月16日再播種、そのため、昭和57と59年の2か年平均である。

奨励品種編入に関する資料

試験場所	系または品種名	年次	開花期 (月・日)	成熟期 (月・日)	倒伏程度	主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢数 (個/m ²)	a当り収量(kg)			百粒重 (g)	品質	ウイルス病
									総重	子実重	大館2号比(%)			
前	ベダイナゴ ニン	57	7.20	8.25	無	24	0.2	288	22.1	12.1	116	16.7	中中	
		58	8.3	9.10		31	0.2	351	26.9	14.9	106	15.3		無
		59	7.28	10.1	無	38	2.8	454	48.0	23.8	184	16.3	中上	無
		平均	7.27	9.12	無	31	1.1	364	32.3	16.9	136	16.1	中中上	無
沢	大館 2号	57	7.20	8.30	無	33	1.6	299	22.1	10.4	100	7.9	中中	
		58	8.4	9.13		31	0	328	27.7	14.0	100	9.8		少
		59	7.30	10.2	無	30	1.8	300	30.0	12.9	100	12.7	中上中	無
		平均	7.28	9.15	無	31	1.1	309	26.6	12.4	100	10.1	中中	少~無
藤	ベダイナゴ ニン	57		9.5~15	微	47	4.0	270	35.6	15.9	104	16.9	中中	
		*58	8.5			19	0.6	173	11.5	6.6	330	14.6		無
		59	8.1	9.26	少~中	35	1.5	139	43.0	13.8	109	21.1	中上中	無
		平均			微~中	41	2.8	205	39.3	14.9	107	19.0	中上中	無
沢	大館 2号	57		9.5~15	無	48	1.2	286	30.5	15.3	100	9.7	上下	
		*58	8.7			12	0	87	4.4	2.0	100	8.2		無
		59	8.2	9.30	微	38	1.9	171	29.8	12.7	100	11.3	中上	微
		平均			無~微	43	1.6	229	30.2	14.0	100	10.5	上下上	無~微
藤	紅南部	57	8.11	9.20	微	48	2.2	227	22.9	12.3	80	10.1	上下	
		*58	8.13			15	0.1	93	8.0	4.6	230	10.7		微
		59	8.15	10.25	微~少	45	2.0	254	64.2	18.7	147	15.1	上下上	少
		平均			微~少	47	2.1	241	43.6	15.5	111	12.6	上下上	微~少

※ 藤沢：昭和58年は出芽不良のため補植及び再播種した。
そのため、昭和57年と59年の2か年平均である。

付表-1 耕種概要

試験場所	試験年次 (昭和)	施肥量 (kg/a)			播種日 (月・日)	栽 植 密 度						区制	土 壤
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O		早 生			中 晩 生				
						畦巾 (cm)	株間 (cm)	1株 本数 (本)	畦巾 (cm)	株間 (cm)	1株 本数 (本)		
二戸町	57	0.4	1.7	0.8	5.17	60	15	2	60	12	1	2	火山性土
	58	0.4	1.7	0.8	5.19	60	15	2	60	12	1	2	火山性土
	59	0.36	1.5	0.8	5.17	70	20	2	70	15	1	2	火山性土
一戸町	57	0.2	1.0	0.6	5.25	63	15	2	63	12	1	2	火山性土
	58	0.2	1.0	0.6	6.16	60	12	2	60	15	2	2	火山性土
	59	0.7	3.0	2.2	5.20	60	15	2	60	12	1	2	火山性土
前沢町	57	0.4	1.5	0.7	5.18	77	10	2	77	12	1	2	火山性土
	58	0.4	1.5	0.7	5.16	77	10	2	77	12	1	2	火山性土
	59	0.36	1.5	0.72	6.11	70	10	1	70	10	1	2	火山性土
藤沢町	57	0.1	0.4	0.2	6.7	70	15	2	70	15	1	2	褐色森林土
	58	0.1	0.4	0.2	6.6	75	15	2	75	15	1	2	褐色森林土
	59	0.4	1.0	0.48	6.21	70	10	1	70	10	1	2	褐色森林土

注) 早生：ベニダイナゴン、大館2号、中晩生：岩手大納言、紅南部

Ⅶ 「ベニダイナゴン」の試験成績概評一覧

試験場所名		昭和57年			昭和58年			昭和59年		
		収量比	概評	対照品種名	収量比	概評	対照品種名	収量比	概評	対照品種名
生産力検定	岩手県農試本場	114%	◎	大館2号	141	◎	大館2号	185	◎	大館2号
	岩手県農試県北分場	120	◎	大館2号	109	◎	大館2号	75	○	大館2号
	岩手県農試県南分場	165	◎	岩手大納言	126	◎	岩手大納言	162	◎	岩手大納言
現地調査	二戸町	145	◎	大館2号	89	○	大館2号	102	○	大館2号
	一戸町(奥中山)	205	◎	大館2号	115	◎	大館2号	107	◎	大館2号
	前沢町	116	◎	大館2号	106	◎	大館2号	184	◎	大館2号
	藤沢町	104	◎	大館2号	330	◎	大館2号	109	◎	大館2号

奨励品種編入に関する資料

摘要：

① 早生種に属し、開花、成熟期は「大館2号」「岩手大納言」より早い。粒大は「岩手大納言」並みの大粒種で、子実重は「大館2号」「岩手大納言」より多収性を示す。ウイルス病抵抗性極強で、県南部での罹病も極めて少ないことから作付面積の拡大が可能である。

② 県中部で6月上～中旬、県北部では6月上旬の播種で多収を示すほか、県南部では6月下旬～7月上旬の播種で20kg/a以上の多収を示し、麦刈り後での栽培にも適する。

③ 栽培密度反応は標準栽培(11株/m²)より

密植(14~17株/m²、2本立)で多収を示す。

④ 窒素増肥の効果は、標準0.4kg/aより0.8kg/aで増収傾向が認められる。

⑤ 子実の粒大は、5.5mm以上が「岩手大納言」の90%に対し、「ベニダイナゴン」は80%で大差がない。水煮時性は「大館2号」「岩手大納言」に比べ表皮裂開はおそいが、粒の崩壊は早い。製あん特性は、流通の主流を示める北海道産の「大納言小豆」に比較して、粒色、色揃い、光沢は同程かやや優れた。表皮が薄く製あん歩合が高く、あんの色沢、粘り、硬さも適度で、食味もまさらた。

◎ 「ベニダイナゴン」育成従事者氏名(北海道十勝農業試験場)

年次(昭和)	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
世代	交配	F ₁ , F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀	F ₁₁	F ₁₂
育成者氏名												
原 正 紀	_____											
村 田 吉 平	_____											
足 立 大 山	_____											
島 田 尚 典	_____											
成 河 智 明	_____											
千 葉 一 美	_____											
佐 藤 久 泰	_____											
松 川 勲	_____											
兼 平 修	_____											

◎ 「ベニダイナゴン」採用試験担当者氏名(岩手県立農業試験場)

担当者名			年次	54	55	56	57	58	59
			世代	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀	F ₁₁	F ₁₂
技術部	部長	宮野克己		○	○	○	○	○	○
	畑作科長	佐藤忠士		○	○				
	"	鎌田信昭		○	○	○	○	○	○
	主任専門研究員	高橋康利		○					
	主任専門研究員	大野康雄							○
	専門研究員	神山芳典			○	○	○	○	
	"	佐々木健治		○	○	○	○		
	"	大清水保見						○	○
	"	作山一夫							○
	"	高橋伸夫		○	○	○	○		
	"	赤坂安盛			○	○	○	○	
	"	木内豊						○	○
	環境部	"	諏訪正義		○	○	○		
"	武田真一					○	○	○	
県南分場	分場長	大川晶				○	○		
	"	清原悦郎						○	○
	次長	菅野昭五					○	○	○
	主任専門研究員	高橋康利			○	○	○	○	
	専門研究員	神山芳典							○
	"	新毛晴夫			○	○			
	"	大清水保見			○	○			
	"	折坂光臣			○	○	○	○	
	"	及川一也						○	○
	県北分場	分場長	佐々木 颯				○	○	
"	佐々木 邦年							○	
"	次長	佐々木 信夫				○	○		
"	小沢 龍夫							○	
"	主任専門研究員	大野康雄				○	○		
"	専門研究員	茂市修平				○	○	○	